

溝口芸術を支えた伝説の映画美術監督、水谷浩の人と仕事

Pioneering Art Director:
Hiroshi Mizutani at his Centenary

生誕100周年記念

美術
監督

水谷浩 の仕事

2006年4月4日(火)―9月24日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室 [7階]

*月曜日および5月29日(月)―6月5日(月)は休室

開室時間: 午前11時―午後6時30分 (入場は午後6時まで)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

出品リスト

水谷浩 (1906-71) は、東京美術学校 (現在の東京芸術大学) に在学中の1927年、松竹キネマ蒲田撮影所に入社して映画界への第一歩を踏み出しました。当時の所属は「大道具課装置係」、担当作品には牛原虚彦、豊田四郎、小津安二郎の他、清水宏や斎藤寅次郎の無声映画も含まれていたと言われています。その後、帝キネ、新興キネマへと活動の場を移しながら「祇園祭」をはじめとする溝口健二作品、「霧笛」など村田実作品での仕事が注目を集め、溝口とともに招かれた松竹下加茂では「残菊物語」「浪花女」「芸道一代男」(いわゆる「芸道三部作」)で明治ものの美術を極めます。また、1941年の「元禄忠臣蔵」では松の廊下を初めて原寸大で再現する一方、史実の中にも自在なデフォルメを加え、映画における「美術監督」の存在感を不動のものとししました。そして戦後の「西鶴一代女」「近松物語」などで、国際的にも高まりを見せる《溝口芸術》の評価に多大な貢献をなしたことは、あらためて繰り返すまでもありません。

本展は、水谷浩の生誕100周年を記念して開かれるものであり、同美術監督に関する展覧会としては国内初の本格的な催しとなります。ここでは、フィルムセンターに寄贈されたデザイン画や遺品などを通して、パイオニアの足跡と映画における美術の仕事の概観するとともに、晩年の水谷が情熱を注いだ絵巻映画などの知られざる構想にも照明を当てます。

2006年4月

東京国立近代美術館フィルムセンター

表紙：〈上〉写真：「楊貴妃」スナップ。前列左から溝口健二、水谷浩。
 〈下〉デザイン：「赤線地帯」(1956年、溝口健二監督)

発行・著作： 東京国立近代美術館◎
 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
 TEL: 03-3214-2561

編集： 東京国立近代美術館フィルムセンター
 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
 TEL: 03-3561-0823

制作： 印象社

発行日： 2006年4月4日

Hiroshi Mizutani (1906-71) joined the Shochiku Tokyo Studios in 1927 when he was still a student at the Tokyo Fine Arts School, the predecessor of the Tokyo National University of Fine Arts and Music. As a member of the "set design" section, Mizutani worked on silent films by such directors as Kiyohiko Ushihara, Shiro Toyoda, Yasujiro Ozu, Hiroshi Shimizu and Torajiro Saito. After moving to Teikoku Kinema and then Shinko Kinema, Mizutani's work started to gain recognition through films directed by Kenji Mizoguchi and Minoru Murata.

This led to his next move to the Shochiku Kyoto Studios which invited Mizutani together with Mizoguchi. Critics agree that Mizutani perfected his artwork in that period. For example, he was successful in recreating the scenery and atmosphere of the Meiji era (1868-1912), the period in which these films were set. Another important work at this period was *The Royal 47 Ronin* in 1941 which was instrumental in establishing Mizutani as "art director" of filmmaking. In this film, Mizutani recreated the historically famous main corridor of the Shogun's castle in the actual size in order to achieve historical realism, while at the same time he employed artistic expressionism, the result of which was the exquisite combination that proved the importance of art director. In the post-war period, Mizutani continued to be instrumental in achieving the artistic integrity of Mizoguchi's films such as *The Life of Oharu* and *A Story from Chikamatsu*, thereby contributing to Mizoguchi's international acclaim.

Commemorating Mizutani's centenary, this is the first comprehensive exhibition on his work in Japan. Through objects such as his sketches and personal items that have been donated to the National Film Center, this exhibition surveys Mizutani's career as the pioneering art director of Japanese cinema as well as casting light on Mizutani's lesser-known later projects including the plans for shadow picture films.

April, 2006

National Film Center,
the National Museum of Modern Art, Tokyo

*本展の開催にあたっては下記の個人・団体のご協力・ご支援を賜りました。
 記して感謝いたします (敬称略)

水谷佐紀

水野隆 楊龍子 猪鼻浩行 高橋敬二 田中麻美

奥美濃おもだか家民芸館 角川ヘラルド映画株式会社 川喜多記念映画文化財団 東京藝術大学大学美術館

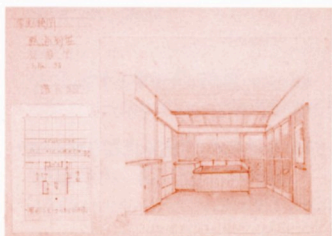
凡例：

- ・本リストの通番と会場内での配列順序は一致していない場合があります。
- ・会期中、一部絵画、資料の展示替があります (*印)。
- ・特に記載の無い資料は水谷佐紀氏からの寄贈品です。
- ・出品内容は止むを得ず変更される場合があります。

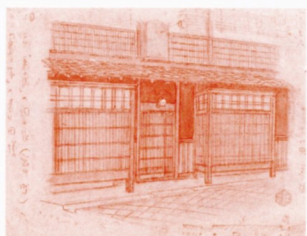
1. 油彩画：水谷浩「自画像」
1929年
東京藝術大学大学美術館所蔵
2. 水彩画：水野柳人「群れ鮎」*
1950年代後半
奥美濃おもだか家民芸館所蔵
*出品期間：4月4日(火)ー7月2日(日)
3. 水彩画：水野柳人「鮎五尾」*
1940年代末
奥美濃おもだか家民芸館所蔵
*出品期間：7月4日(火)ー9月24日(日)
4. 油彩画：水谷清「志摩岬秋」*
1927年
奥美濃おもだか家民芸館所蔵
*出品期間：4月4日(火)ー7月2日(日)
5. 水彩画：水谷清「インド婦人」*
1939年
奥美濃おもだか家民芸館所蔵
*出品期間：7月4日(火)ー9月24日(日)
6. 水谷浩愛用の筆とパレット
7. 水谷浩自作の印章
8. 賞状：日本映画監督協会美術賞
1941年
9. 花瓶（記念品）：昭和15年度日本映画監督協会賞
10. デザイン：「元禄忠臣蔵」
(興亜映画ー松竹太泰、1941-42年、溝口健二監督)
11. デザイン：「夜の女たち」
(松竹京都、1948年、溝口健二監督)
12. デザイン：「わが恋は燃えぬ」
(松竹京都、1949年、溝口健二監督)
13. デザイン：「雪夫人絵図」
(新東宝=滝村プロ、1950年、溝口健二監督)
14. デザイン：「お遊さま」
(大映京都、1951年、溝口健二監督)
15. デザイン：「西鶴一代女」
(新東宝=児井プロ、1952年、溝口健二監督)
16. 敷物（小道具）：「西鶴一代女」
17. デザイン：「噂の女」
(大映京都、1954年、溝口健二監督)
猪鼻浩行氏所蔵
18. デザイン：「近松物語」*
(大映京都、1954年、溝口健二監督)
川喜多記念映画文化財団所蔵
*7月4日(火)より展示内容が変わります
19. 飯茶碗（小道具）：「近松物語」
20. デザイン：「楊貴妃」
(大映東京、1955年、溝口健二監督)
21. デザイン：「赤線地帯」
(大映東京、1956年、溝口健二監督)
22. 溝口健二絵付けの飯茶碗
猪鼻浩行氏所蔵
23. 溝口健二絵付けのぐい呑
24. 溝口健二から贈られた弁当箱
水谷佐紀氏所蔵
25. 溝口健二デス・マスク
酒井辰雄氏寄贈
26. デザイン：「偽れる盛装」
(大映京都、1951年、吉村公三郎監督)
27. デザイン：「愛妻物語」
(大映京都、1951年、新藤兼人監督)
28. デザイン：「源氏物語」
(大映京都、1951年、吉村公三郎監督)
29. デザイン：「お役者変化」
(松竹京都、1954年、大曾根辰夫監督)
30. デザイン：「元禄美少年記」
(松竹京都、1955年、伊藤大輔監督)



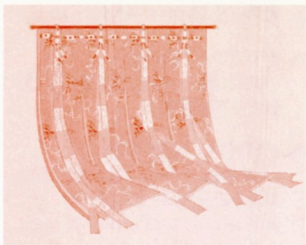
20



13

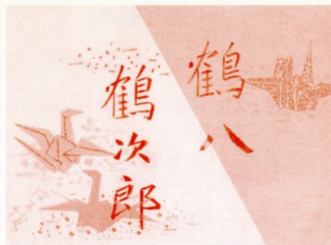


26



28

31. デザイン：「遠山金さん捕物控 影に居た男」
(宝塚映画、1956年、マキノ雅弘監督)
32. デザイン：「鶴八鶴次郎」
(松竹京都、1956年、大曾根辰保監督)
33. デザイン：「顔」
(松竹京都、1957年、大曾根辰保監督)
34. デザイン：「夜の鼓」
(現代ふる、1958年、今井正監督)
35. デザイン：「女侠一代」
(松竹京都、1958年、内川清一郎監督)
36. デザイン：「高丸菊丸 疾風篇」
(歌舞伎座、1959年、丸根賛太郎監督)
37. デザイン：「バイナッブル部隊」
(松竹京都、1959年、内川清一郎監督)
38. デザイン：「最後の航海」
(米アンドリュー・アンド・バージニア・ストーン・プロ、1960年、アンドリュー・L・ストーン監督)
39. デザイン：「命との対決」
(松竹京都、1960年、酒井辰雄監督)
40. デザイン：「太陽にかける橋」
(米MGM＝仏シテ・フィルム、1961年、エチエンヌ・ベリエ監督)
41. デザイン：「甘い汗」
(東京映画、1964年、豊田四郎監督)
42. 「007は二度死ぬ」
(英イオン・プロ、1965年、ルイス・ギルバート監督) に関わるメモ
43. デザイン：「いのちぼうにふろう」
(東宝＝俳優座、1971年、小林正樹監督)
44. シナリオ：「野蠻人」
1947年頃
45. シナリオ：「游蛇 エラビダーエ」
1947年頃
46. シナリオ：「偽作」
1950年頃



32

47. 梗概：「山本周五郎 私です物語より」
1952年
48. シナリオ：「恋人よ今日は さよならエトランジェ」
1955年頃
49. シナリオ：「魚美人」
1955年頃
50. ストーリー：「鯉魚」
1955年頃
51. シナリオ：「子供の四季」
1956年頃
52. シナリオ：「白い女狐」
1957年
53. シナリオ：「葉山一色海岸」
1957年
54. ストーリー：「北京哀愁」
1957年
55. シナリオ：「世紀の足」
1957年
56. シナリオ：「愛慾の海」
1957年
57. 梗概：「女の二十四時間」
1957年
58. シナリオ：「雨間」
1961年
59. シナリオ：「狂炎」
1962年
60. シナリオ：「月のなかの兎」
1962年
61. シナリオ：「笠地蔵」
1962年
62. シナリオ：「キツネとクマ」
1962年
63. シナリオ：「枯木に花を咲かせたお爺さん」
1962年

64. シナリオ：「ぶどう酒ビンのふしぎな旅」
1962年
65. シナリオ：「京の色肌」
1964年頃
66. シナリオ：「雪女」
1966年
67. シナリオ：「壁」
1968年
68. シナリオ：「愛奴生誕」
1969年
69. 絵コンテ：「小さな赤いボールの冒険」
1970年
70. シナリオ：「天女の羽衣」
1962年
71. 絵コンテ：「天女の羽衣」
72. デザイン：「天女の羽衣」
73. 人形：「天女の羽衣」
74. 映像：「天女の羽衣」8mmテストフィルムより
75. 水彩画：「静物」
1948年
76. 水彩画
1967年
77. 水彩画
1971年
78. ポスター：「葉山龍宮祭」
79. 水谷浩装幀「ドレミファがくふ」No.1
(群青社、1950年)
80. 「女性展望」装幀デザイン
81. 三木茂著「写真報道記 マライ」装幀デザイン
82. 三木茂著「写真報道記 馬來」装幀デザイン
83. 水谷浩著「源氏物語 美術ノート」(三到社、1951年)
84. 「水谷浩 映画美術の創造」(光潮社、1973年)
85. 映画美術に関する自筆原稿
86. 音声：大野松治との対談テープ(1971年)より
87. 水谷浩デス・マスク
88. 賞状：毎日新聞社「第26回映画コンクール」美術賞
1972年
89. トロフィー：毎日新聞社「第26回映画コンクール」美術賞
1972年
90. 賞状：日本映画テレビ技術協会「日本映画技術特別賞」
1972年
91. 盾(記念品)：日本映画テレビ技術協会「日本映画技術特別賞」
1972年
92. 東映太秦映画村「第5次『映画の殿堂』入り 選考に関するアンケートのお願い」
1990年
93. 新聞記事：『『映画の殿堂』入り 6人常設展示の準備が進む』『産経新聞』(1990年10月3日)
94. 東映太秦映画村「映画の殿堂」記録写真
95. 映像：Mizutani Mizoguchi - Du décor à la mise en scène (フランス映像文献資料館、2000年) 展示風景
田中麻美氏提供
96. ポスター：Mizutani Mizoguchi - Du décor à la mise en scène (フランス映像文献資料館、2000年)

関連企画上映

東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール(地下1階)

美術監督 水谷浩特集(仮題)

展覧会の会期後半の9月に水谷浩関連作品の上映を予定しています。

東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール(2階)

没後50年 溝口健二再発見

10月31日(火)～11月16日(木)、11月28日(火)～12月27日(水)

*詳細はチラシ、ホームページで発表します。